

【資料 1】

国語アンケート

選択肢は全て以下のとおりである。

- 1 当てはまる      2 どちらかといえば、当てはまる  
3 どちらかといえば、当てはまらない      4 当てはまらない

- 1 国語の勉強は好きだ。
- 2 国語の授業で、自分で考えることは楽しい。
- 3 楽しく前向きな気持ちで国語の授業に参加できている。
- 4 自分とちがう意見について考えるのは楽しい。
- 5 国語の授業で学習したことは、将来【しょうらい】、社会に出たときに役に立つ。
- 6 国語の授業で学習したことを、ふだんの生活の中で、話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとしている。
- 7 国語の勉強は大切だ。
- 8 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。
- 9 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。
- 10 国語の授業の内容はよく分かる。
- 11 授業を通して国語の力が付いてきていると感じる。
- 12 読書は好きだ。
- 13 国語の授業では、自分の考えをもとうとしている。
- 14 国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしている。
- 15 国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝わるように理由を示したりするなど、話や文章の組立てを工夫している。
- 16 国語の授業で文章や資料を読むとき、目的に応じて、必要な語や文を見付けたり、文章や段落どうしの関係を考えたりしながら読んでいる。
- 17 国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいる。
- 18 国語の授業で文章を読むとき、文章と図表などを関係付けながら読んでいる。

【資料2】授業者が整理した「言葉のたから箱」（枠線で見開きページ）



<p><b>怖</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心配する</li> <li>・こわい</li> <li>・気になる</li> <li>・おそろしい</li> <li>・ぞっとする</li> <li>・はらはらする</li> <li>・ひやひやする</li> <li>・不安</li> </ul>	<p><b>喜</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おもしろい</li> <li>・楽しい</li> <li>・わくわく</li> <li>・うれしい</li> <li>・喜ぶ</li> <li>・気持ちがいい</li> <li>・幸せ</li> <li>・さわやか</li> <li>・気分がいい</li> <li>・きげんがいい</li> <li>・満足気</li> <li>・楽</li> <li>・ゆかい</li> </ul>	<p><b>怒</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・元気づけられる</li> <li>・ありがたい</li> <li>・感謝</li> <li>・自まん</li> <li>・自信</li> <li>・有頂天</li> <li>・得意になる</li> <li>・ほこらしい</li> <li>・快い</li> <li>・満ち足りる</li> <li>・痛快</li> <li>・心地よい</li> <li>・晴れやか</li> </ul>
<p><b>恥</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・落ち着かない</li> <li>・心細い</li> <li>・おそれる</li> <li>・冷や汗をかく</li> <li>・不気味</li> <li>・心もとない</li> <li>・気がかり</li> <li>・ためらう</li> </ul>	<p><b>哀</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気持ちが悪い</li> <li>・腹が立つ</li> <li>・かっとなる</li> <li>・頭にくる</li> <li>・いら立つ</li> <li>・しらける</li> <li>・むっとする</li> <li>・鼻につく</li> </ul>	<p><b>衰</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さびしい</li> <li>・かなしい</li> <li>・落ちこむ</li> <li>・しんみり</li> <li>・もの悲しい</li> <li>・あわれ</li> <li>・気の毒</li> <li>・いたいたしい</li> </ul>



けている。最初は問いと答えの関係をを用いた導入のような事例で、残りの二つは、原因と結果という因果関係を用いた事例となっている。因果関係が用いられた事例では、先に結果を書き、その後、原因について詳しく書いている。この関係性を基に読むことで、事例と主張との関係性を捉えやすくなっている。

以上のように、本学習材は、要旨を把握するために、文章全体では主張と事例との関係を、本論部では情報と情報との関係を捉えていく必要がある学習材である。

(3)指導について

ア 主体的な態度について

本単元では、初発の感想を、内容のどの部分がかかりにくかったのか、詳しく知りたくなったのかという視点で書かせる。児童一人一人に「分らないところ」「わたくし知りたいたいところ」を明確に意識させることで、自分の課題を解決していくという、主体的な学びになると考える。また、学習のゴールとして、自身の課題を補足する具体例をまとめたものをデータ化し、二次元コードにしたものを自分の教科書に貼るということを児童と最初に共有する。学習の見通しをもつだけでなく、「みんなと同じ」教科書が「自分だけの教科書」になるということに児童は特別感をもち、意欲的に学習に取り組んでいくと考えられる。

イ 複数テキストの関係付けについて

「関係付ける」という情報の扱い方に関する指導事項の習得だけを目的とするのではなく、それが、「構造と内容の把握」という読むことの指導事項の習得に寄与するという考え方で、複数テキストを関係付けさせる。自身の課題を補充する具体例を「どこに付け加えるのか」という思考を動かせることで、文章の構造的な理解が自分のためのものになる。そして、具体例にまとめるということは、本文の要旨の「言葉の意味を『面』として考えることは、普段使っている言葉や、もの見方を見直すことになり」ということを実際に体験させることになり、要旨を実感的に把握することにつながる。

本文に関係付けるテキストとして、二つを用意する。一つは、「光村 国語」の2年生以上の巻末付録である「言葉のたから箱」の心情を表す言葉を整理したものだ。もう一つは、本論部の三つ目の事例の箇所配置されている図である。

前者は、『感情表現辞典』（中村明 1993 東京堂出版）による感情 10 分類に整理したものである。これを活用して、本論部の事例の一つ目か二つ目に付け加えさせる。一つ目の事例に付け加えるのであれば、同じ分類の中の言葉をいくつか挙げさせ、使う場面の違いに着目させながら問いと答えの関係の構造の文章にまとめさせる。二つ目の事例に付け加えるのであれば、その分類の中から心情語を二つ選び、それらを使った面白い言い聞きの文を考えさせる。そして、その文を用いて、原因と結果の関係の構造の文章にまとめて付け加えさせる。

後者は、日本語と韓国語と中国語の言葉の広がりや重なりが表現されたものである。この図を文章に再構成させて、本論部の三つ目の事例に付け加えさせる。文章に再構成させる際には、まず、ペーパーを使って必要な情報を選択させ、整理させる。その後、原因と結果の関係の構造の文章にまとめて付ける。

ウ ICT 機器の活用について

第5学年 国語科学習指導案

1 単元名「学習材」

言葉の意味が分かること ver.わたし

「言葉の意味が分かること」(国語 五 光村図書)

2 付けたい力

主体的に文章を読み、情報と情報とを関係付けて要旨を把握する力。

3 単元目標

- 原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。 [知識及び技能](2)ア
- 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。 [思考力、判断力、表現力等]C(1)ア
- 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

4 言語活動とその特徴

本単元では、「言葉の意味が分かること」(国語 五 (光村図書))の本文に、自身の課題を補充するような具体例を付け加えるという言語活動を設定する。

この言語活動では、次の三つを重視する。一つ目は、児童自身が、自分の「分らないこと」や「詳しく知りたいこと」を補うために、ふさわしい事例を選ぼうとしているかどうかということだ。二つ目は、付け加える具体例と「言葉の意味が分かること」の要旨とを整合させているかどうかということだ。三つ目は、付け加える具体例を、適切な箇所へ付け加えているかどうかということだ。この三つの視点を児童に意識させて言語活動を展開することにより、主体的に学習に取り組ませるとともに、文章を構造的に捉えた上で要旨を把握させる力を付けることに有効であると考える。

5 単元について

(1)児童について

児童は、物語教材の「なまえつけてよ」(国語 五 (光村図書))で、二人の登場人物の関わりの変化を叙述を基に捉えて感想をまとめるという学習を行っている。その際には、物語全体を捉えながら叙述を関係付けていくという学習を行った。説明的文章においても、文章全体を捉えることと細部を関係付けて捉えることを往復することが大切だということを実感させていきたい。

(2)学習材について

本学習材は、双括型の説明的文章である。本論部分は三つの意味段落で構成されている。主張が述べられている叙述は見付けやすい。しかし、やや抽象度の高い表現で述べられているので、本論部の事例と主張とを関係付けていかなければ、要旨を把握することが難しい文章となっている。

三つの意味段落で構成される本論部は、言葉の意味を「面」として捉えるというこの具体例を挙

情報の可視化と情報の圧縮という二つの視点でICT機器を活用させる。  
前者については、本論部の二つ目の事例と三つ目の事例を、原因と結果の関係で捉えるときに活用させる。原因と結果について、それぞれ、自分のICT端末を用いてカードにまとめさせる。その際に、カードの色分けをさせ、視覚的にも関係性を捉えやすくさせる。また、それぞれが付け加える具体例を文章にまとめていく際にも同様に活用することで、原因と結果の関係性を明確に表現させることができると考える。

後者については、自分でまとめた具体例を実際に本文に付け加えるときに活用させる。まとめた文章を写真に撮り、それを、二次元コードにすることで、教科書そのものに付け加えることができる。本単元の教科書教材には二次元コードは載っていないが、ほかの単元の教材には載っているものが多い。同じことを、自分のICT端末を使ってやらせることで、学びの達成感をもたせたい。

### 6 評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 原因と結果など情報と情報との関係について理解している。 (2)ア	① 「読むこと」において、事実と意見との関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。 (C)(1)ア	① 粘り強く情報と情報との関係について考え、文章全体の構成を捉えて要旨を把握しながら、自身の学習課題に沿った具体例を付け加えようとしている。

### 7 指導計画と評価計画(全9時間)

時	主たる学習活動	学習活動に即した評価規準	評価方法・評価の実際
1	○ 「言葉の意味が分かる」と読み、どの内容が分りにくかったかを確認する。	○ 文章を読んで、分からなかった内容や、詳しく知りたくなっている。 [主]①	「記述の確認」初発の感想・初発の感想に、分からなかった内容や、詳しく知りたくなっているかを確認する。
3	○ 付け加えたい具体例をどこに配置するかという視点で、本論の段落構成について考える。	○ 序論—三つの本論—結論という文章構成を捉えている。 [思・判・表]①	「記述の確認」ワークシート ・自身の課題を補充する具体例を適切な箇所に配置しようとしているかを確認する。
4	○ 筆者の主張は何かを考え		
5			
6			

○ 本論2と本論3を、原因と結果の関係に基づいて捉える。	○ 本論2と本論3の原因と結果の関係について理解している。 [知・技]①	「記述の確認」カード ・本論2と本論3を、原因と結果に分けてカードにまとめていくかどうかが確認する。	
7	○ 教科書巻末付録「言葉のたから箱」や本論3の箇所に書かれている図を基に、自分の分りにくかった内容を補充する具体例をまとめる。 ・本論1であれば、「言葉のたから箱」から大きく捉えることと似た意味になる言葉を複数選んでから、問いと答えの関係の文章にまとめる。 ・本論2であれば、「言葉のたから箱」の同じ分類の心情語から二つの言葉を選び、面白い言い間違いの文を考えてから原因と結果の関係の文章にまとめる。 ・本論3であれば、図から重なりのある言葉を選び、まず、それぞれの言葉で文を作ると、不自然になるようにして、不自然になるようにして原因と結果の関係の文章にまとめる。	○ 自身の課題を補充する適切な言葉を選んで、要旨に沿って文章にまとめている。 [思・判・表]①	「記述の確認」振り返り ・ワークシート・振り返り ・別テキストや図から、自身の課題を補充する適切な言葉を選び、それらを、言葉の意味の「面」の広がりを意識しながら、文章にまとめていくかどうかが分析する。
8	○ まとめた具体例を二次元コード化し、教科書に貼る。 ○ 学習を振り返る。	○ 自身の学習を、学習過程に着目して振り返っている。 [主]①	「記述の確認」振り返り ・付けたカードについて記述しているか、自身の課題についてどのように学習していったのかということについて記述しているかどうかが確認する。
9			

## 第5学年 国語科学習指導案

### 1 単元名「学習材」

筆者の意図を想像して読もう ～わたしのころ模様を探索～

「固有種が教えてくれること」(国語 五 光村図書)

### 2 付けたい力

具体例と主張とを結び付けて、論の展開について考えをまとめる力。

### 3 単元目標

- 話や文章の構成や展開について理解することができる。  
[知識及び技能]C(1)カ
- 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。  
[思考力、判断力、表現力等]C(1)ウ
- 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。  
[思考力、判断力、表現力等]C(1)オ
- 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする。  
「学びに向かう力、人間性等」

### 4 言語活動とその特徴

本単元では、「固有種が教えてくれること」(国語 五 光村図書)の論の展開のよさについて、自分の考えをまとめるという言語活動を設定する。文章を読んだときの心の動きを、筆者の論の展開の工夫に探っていくという活動である。本単元における「論の展開のよさ」とは、資料を用いて説明していることと、情報の扱い方に軽重をつけて主張に結び付けていることと定義する。また、「自分の考えをまとめる」ということは、自分が文章から受け取ったことを踏まえた上で、論の展開の工夫について、一般化された「筆者」と「読者」の視点で考えを記述することと定義する。

学習過程では、学習材の筆者である「今泉忠明氏」と「わたし」という個別の認識から、一般化された「筆者」と「読者」へと視点を移して考えさせていく。そうすることで「よさ」について美感的に理解を深めることができることも、考えをまとめる際に、「筆者」の意図と、図表やグラフ、情報の取り上げ方が「読者」に与える効果とについて、自分が文章から受け取ったことを踏まえて構造的に捉えさせることができる。と考える。

以上から、この言語活動は、本単元における付けたい力及び単元目標を身に付けさせるために効果的であると考える。

### 5 単元について

(1)児童について

1学期に、「言葉の意味が分かること」(国語 五 光村図書)を学習材として、文章構成を踏まえた上で要旨を把握する力を付ける学習を行った。その際には、原因と結果の関係付けや、主張と具体例と関係付けに着目させる学習を展開した。

結果、原因と結果の関係付けに関しては、ほとんどの児童が理解することができた。一方、主張と具体例の関係付けに関しては、難しさを感じたまま学習を終える児童もいた。また、文章とともに配置されている図を、文章に即して理解することにも難しさを感じている児童がいた。

そこで、今回は、「固有種が教えてくれること」(国語 五 光村図書)を学習材とし、文章と図などの結び付きや主張と具体例の結び付きについて、より実感をもたせて学習を進めていきたいと考える。

(2)学習材について

「固有種が教えてくれること」(国語 五 光村図書)は、『ざんねんないきもの辞典』などを監修している今泉忠明氏による文章である。要旨は、「日本の固有種は、生物の進化や日本列島の成り立ちの生き証人として貴重な存在であり、日本列島の豊かで多様な自然環境が守られていることの証でもある。その固有種は、日本でしか生きていくことができないから、日本に暮らす私たちには、固有種が住む日本の環境をできる限り残していく責任があるのではないか。」ということであり、これに説得力をもたせるために、「中」の構成及び展開に筆者の工夫がある。本単元で児童に着目させる工夫は二つある。

一つは、取り上げる事例に図や写真、表などを併せて説明していることだ。本学習材のテーマ自体が5年生の児童にとっては難しいものである。だから、図や写真、表などがそれぞれの事柄を理解する手助けになるように構成されている。また、二つのグラフを関係付けて示すことにより、納得感を読者に与える工夫もされている。

もう一つは、事例の取り上げ方に軽重をもたせることで、主張に説得力をもたせていることだ。「中」で大きく取り上げている事例は、「日本とイギリスの違い」「日本列島の成り立ち」「日本の気候と地形の特徴」、「ニホンカモシカと天然林の関係」の四つである。小さく取り上げている事例は、「ニホンオオカミ、ニホンカワウソ、ニホンリス」の事例である。この事例は、「ニホンカモシカと天然林の関係」への導入のように取り上げている。この「ニホンオオカミ…」の事例を詳しく取り上げないことにより、「人間が動物を絶滅させている」ということよりも、主張である「日本の環境を守っていく必要がある」ということに読者の思考を導いている。

本学習材の以上のようなよさを生かすことによって、本単元における付けたい力を児童に効果的に身に付けさせることができると考える。

(3)指導について

ア 主体的な学びについて

学習の中心に、「へえっ」「なるほど」「たしかに」「ん？」「あれ？」などの児童が「文章から受け取ったこと」を据える。そして、そのように感じた理由を単元を通して解き明かしていくというように学習を展開する。そうすることで、最初から最後まで一貫した見通しをもって学習することができると考える。また、自身の感想を基にして学習していくので、学習を「自分事」として進めていくことができる。と考えている。

導入部では、それぞれが「へえっ」や「ん？」などと感じた部分を学級でまとめる。そして、その部分を取り上げて学習していくことで、自分たちのための学習だという実感をもたせることができると考える。

イ 複数テキストの関係付けについて

本学習材に、「わけあって絶滅しました」(今泉忠明監修 丸山貴史著 2018 ダイアモンド社)と

『も〜とわわわわあ〜絶滅しました』(今泉忠明監修 丸山貴史著 2020 ダイヤモンド社)との二つを関係付ける。前者からは<sup>①</sup>ニホンオオカミについてのテキストを、後者からは<sup>②</sup>ニホンカワウソについてのテキストを用いる。また、<sup>③</sup>両者の「はじめに」も用いる。「はじめに」は、本学習材の著者である今泉忠明氏が書いている。これらと本学習材を関係付けながら読むことで、主張と事例の結び付きについての理解が深まると考える。

まず、本学習材での取り上げ方が小さいニホンオオカミとニホンカワウソの事例について、もし、他の事例と同じように取り上げられていたらどうかと仮定して、傍線部①と傍線部②とを本文に関係付ける。すると、最後の主張とのつながりに齟齬が生じる。その違和感の理由について考えさせていく。

次に、傍線部③を今泉忠明氏の別の主張として提示する。それらと傍線部①と傍線部②はどのように関係付けることができるのかを考えさせる。

最後に、本学習材の主張と具体例との結び付きに焦点を当てて展開を捉えさせ、筆者の意図と読者である自分の納得感とを併せて考えたことをまとめさせる。

以上のように学習を展開することにより、主張と具体例の関係付けに対して、実感的に理解を深めることができるようになる。

#### ウ 国語科における学習評価の具体化について

『『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料』(国立教育政策研究所教育課程研究センター 2020)では、単元の評価基準の作成のポイントの一つとして、「それぞれの評価規程について、実際の学習活動を踏まえて、『おおむね満足できる』状況(B)、『努力を要する』状況(C)への手立てを想定する」と解説している。また、学習評価について、「児童生徒の学習状況を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、児童生徒が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができていくようにするための」と述べている。また、中央教育審議会答申(2016)では、前述と同様の内容と併せて、パフォーマンス評価などを取り入れて、多面的・多角的な評価を行うっていくことが必要であるとも述べている。

これを受けて、本単元においては、ルーブリックを作成することで、児童の実態に基づいて「付けたい力」を定義するとともに、総合的な評価を行う。また、そのルーブリックを児童に示し、付けたい力を踏まえた目指すべき思考、判断及び表現の指針とする。各時間の自身の学習を、単元の最終の自身の姿との関係性の中で捉えさせていきたいと考えている。なお、学習指導案には、詳細な見取りのために5段階のルーブリックを記載するが、児童には、その中の「1及び2」、「3」、「5」を取り出して、それぞれを「1」、「2」、「3」として提示することで、「おおむね満足できる」状況(B)を明確に意識させたいと考える。

### 6 評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 話や文章の構成や展開について理解している。(1)力	① 「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けて必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。	① 粘り強く筆者の論の展開のよさについて考えようと、自身の学習課題に沿って、それらについての自分の考えをまとめようとしている。

	(C)(1)ウ ② 「読むこと」において、文章を読んで理解したことを基として、自分の考えをまとめている。
--	---

### 7 ルーブリック

	記述語
	文章から受け取ったこととその他の原因とを関係付けて理由を記述している。文章から受け取ったことについては、詳しく記述している。原因については、今泉忠明氏の意図と、図表や事例の取捨選択の効果との関係を根拠として記述している。また、論の展開の工夫とその効果について、今泉忠明氏の論の展開と自身の受け取り方を踏まえて、「筆者」と「読者」のどちらかの視点から一般化して記述している。
5	文章から受け取ったこととその他の原因とを関係付けて理由を記述している。文章から受け取ったことについては、詳しく記述している。原因については、今泉忠明氏の意図と、図表や事例の取捨選択の効果との関係を根拠として記述している。また、論の展開の工夫とその効果について、「筆者」と「読者」のどちらかの視点から一般化して記述している。
4	文章から受け取ったこととその他の原因とを関係付けて理由を記述している。原因については、今泉忠明氏の意図と、図表や事例の取捨選択の効果との関係を根拠として記述している。また、論の展開の工夫とその効果について、「筆者」と「読者」のどちらかの視点から一般化して記述している。
3	文章から受け取ったこととその他の原因とを関係付けて理由を記述している。原因については、今泉忠明氏の意図と、図表や事例の取捨選択の効果との関係を根拠として記述している。また、論の展開の工夫とその効果について、「筆者」が「読者」のどちらかの視点から一般化して記述している。
2	文章から受け取ったこととその他の原因とを関係付けて理由を記述している。原因については、今泉忠明氏の意図と、図表や事例の取捨選択の効果との関係について触れている。また、論の展開の工夫とその効果について、今泉忠明氏の視点から記述している。
1	文章から受け取ったこととその他の原因とを関係付けようとしている。内容については記述することができていないか、記述していないも論理的ではない。また、論の展開の工夫とその効果について、記述しようとしている。あるいは、記述していないも、論理的ではない。

※「おおむね満足できる」状況(B)(上記ルーブリック「3」)の想定される児童の記述例

(ワークシートでは「書く力」に左右されずに「読むこと」の領域の力を見取るために、文章を記述する枠を3つのまとまりに分けて提示し、記述内容の視点を示す。段落内で使用する可能性のある接続語も提示する。)

傍線部ア、イ、ウ、エの記述例1(資料に着目した記述例)

わたしは、<sup>ア</sup>5 段落をはじめに読んでみたとき、<sup>イ</sup>よく分かりませんでした。しかし、資料2とあわせて考えると、<sup>ウ</sup>アへ〜となりました。  
その理由は、<sup>エ</sup>絵があることによつて、イメージがわいたからです。今泉さんは、<sup>ロ</sup>日本列島ができてきかぎが、<sup>ハ</sup>きつと、<sup>ニ</sup>5 年生の私たちには分かりにくいと考えたと思います。だから、<sup>ヘ</sup>日本列島が切り離されていく様子を 4 枚の絵にすることで、<sup>ニ</sup>イメージしやすくしたのだと思います。

傍線部ア、イ、ウ、エの記述例2(主張と事例の結び付きに着目した記述例)  
 わたしは、ア今泉さんの主張になるほどだと思います。  
 なぜなら、イ今泉さんの事例の取り上げ方が主張につながっていくようになっていて、納得したからで  
 す。今泉さんは、私たちは、固有種が住む日本の環境をできる限り残していきたいかなければなりませんと主  
 張していて、それをよりウ納得させるための事例として、ニホンカモシカの事例をあげています。エニホン  
 オオカモシカも少しだけ紹介していますが、これを大きく紹介してしまうと、自然を残すという主張にはつなげ  
 りません。ニホンカモシカの事例では、固有種と自然をバランス良く保護しなければいけないということ  
 がよく分かります。

傍線部オの記述例(筆者の視点 ※読者視点の記述は、各文が受動的表現になることを想定してい  
 る。)  
 このように、オ文章だけでは分かりにくいことは、図表などを文章とあわせることによって、自分が伝え  
 たいことを相手に分かりやすく伝えることができます。また、自分のオ主張を相手に納得させて伝えるた

### 8 指導計画と評価計画(全10時間)

時	主たる学習活動	学習活動に即した評価規準	評価方法・評価の実態
1	○ 「固有種が教えてくれるこ と」を読み、自分が感心・納 得したり疑問に思ったりした 部分を確認し、ルーブリック を基にして学習計画を立て る。	○ 文章のどの部分に対して、 自分が感心・納得したり疑 問に思ったりしたのかを捉え ることができている。 〔主〕①	「記述の確認」初発の感想 ・初発の感想に、自分の文 章の受け取り方について 書いているかを確認する。
3	○ 論の構成を確認する。		
4			
5	○ 図表の効果について、自 分の文章の受け取り方を関 連付けて考えをまとめる。	○ 文章と図表とを関係付け て捉え、図表があることの効 果について、自分の文章の 受け取り方に基づいて考え をまとめている。 〔思・判・表〕①	「記述の確認」ワークシート ・図表の効果について、自 分の文章の受け取り方と 関連付けて考えを書けて いるかを確認する。
6			
7	○ 論の展開について、筆者の 意図を考える。 ・「ニホンオオカミ」と「ニホン カワウソ」のテキストを関 係付ける。 ・「はじめに」を関係付ける。	○ 具体例の取り上げ方の軽 重について、筆者の意図と読 者の受け取り方とを関係付 けて考えをまとめている。 〔思・判・表〕①	「記述の確認」ワークシート ・筆者の意図と読者の受け 取り方とを関係付けて、論 の展開の工夫について考 えをまとめているかを確認 する。

8	○ 論の展開と自分の感心・ 納得について、筆者の意図と 自分の受け取り方とを合わ せて考えをまとめる。	○ 筆者の論の展開の工夫と それが読者に与える効果と の関係性を踏まえて、自分が感 心・納得したり疑問に思った りした理由について考えをま とめている。〔知・技〕①② 〔思・判・表〕②	「記述の分析」ワークシート ・論の展開の工夫とその効 果を踏まえて自分の感心・ 納得の理由をまとめてい るかを確認する。
9		○ 筆者の論の展開のよさと、 自分の文章の受け取り方と をどのように関連付けたのか を明らかにしている。 〔主〕①	「記述の確認」振り返り ・筆者の意図と自分の受け 取り方との関連付けの理由 について書けているかを 確認する。
10	○ 学習を振り返る。	○ 自分のパフォーマンスをル ーブリックに照らし合わせて、 付けたいカがどのようにして 身に付いたかを記述してい る。 〔主〕①	「記述の確認」振り返り ・付けたいカや、学びの過 程について記述してい るかを確認する。